



CAP って何？

お答えします。CAP代表 佐藤 朗子

● CAPとは…。

CAPとはChild Assault Prevention（子どもへの暴力を防止）の略です。
子どもが、いじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といったあらゆる暴力に対して何ができるかを、子ども、保護者、教職員、地域の人々に伝える教育プログラムです。

● 従来の防止法とCAPの違い。

従来の防止方法は「～してはいけません」式の子どもの行動範囲を制限や規制しようとするやり方でした。根底に「子どもは力がなく弱だから、大人力で子どもを守らなければならない」という考え方があります。しかし大人が一日中そばについて守ることはできません。この防止方法には限界があります。現実社会ではあらゆる暴力（いじめ、誘拐、虐待、性暴力等）の危険にさらされ、避けることはできません。もし子どもが危険な状況に陥った時、何の知識も情報も教えられていなければ、一体何をしたらよいのかわからずに被害にあうことが多いのです。

そこで何かあった時にどう対応したらよいか、子どもに教えておくことが必要になります。

CAPは従来の危険を防止する教育とは根本的に異なり、「**子どもには自分の心と身を守る力がある**」という信頼の上に立って、子どもが主体の参加体験学習の方法で学んでいきます。「あなたは～できる」と行動の選択肢と問題解決の方法と一緒に考え、暴力に対処できる力を引き出していく防止方法です。子どもの人権を尊重し、人権意識を育てることで、自尊心（自分は大切な人だという気持ち）が高められます。そこからあらゆる暴力に対して、**知恵を持って自分の心と身体を守る力をつけていく「人権教育プログラム」**なのです。

Q. CAPを受けたら逆に子どもが怖がりませんか？

多くの子ども達はCAPを受けた後「楽しかった」と言います。
「暴力」という怖いテーマですが、楽しく学ぶ工夫がされています。

Q. 子どもが抵抗したらかえって危険な目に合うのではないのでしょうか？

CAPを受けたおかげで、自分を守った子どもはたくさんいます。
交通安全教室のように、子どもにわかりやすく伝えておくことは重要です。

Q. 「いや」と言うことを教えると、わがままになるのではありませんか？

CAPでは「いやと言いなさい」ではなく、「いやと言ってもいいんだよ」と伝えていきます。
いじめやささまざまな暴力から自分を守るために「いや」という言葉は大切です。

Q. つい子どもをしかってしまうのですが…

子育ては大変ですね。その大変さを、お母（父）さんも誰かに聴いてもらってください。
そして、子どもの辛い気持ちを聴いてください。それが、子どもが自分を守る力の源になります。

※ CAP イラスト&コミック版サクセスストーリーより





ウェルフェアテクノハウス弘前 ＝在宅介護機器の家＝を見学して…



ウェルフェアテクノハウス弘前は、在宅介護をやさしく支えるための福祉機器を展示した、2世帯タイプの木造のモデルハウスです。

玄関前には、車いす昇降機やゆるやかなスロープがあり、また足をしっかり乗せることができる幅で段差の低い階段と一般的な階段があるので、のぼり比べることで負担の少なさを体験できます。

中に入ると、玄関や廊下の広さに驚きです。車いすを使用するために必要な広さを改めて実感しました。立ち座りの動作が楽なように、便座が高くなる障がい者用トイレや介護用ベッド、ホームエレベーター、昇降式システムキッチンもあるので、リフォームを考えているかたなどの見学もあるそうです。

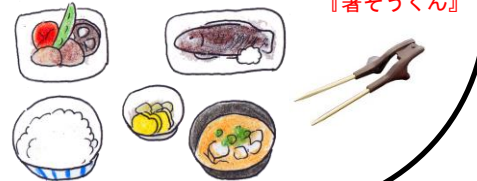
また自助具といって、自分自身で食事ができるよう、使う人の症状に合うさまざまなタイプのスプーンやフォークが展示されていて、実際に使ってみることができます。「箸ぞうくん」というトングのようにになっている箸は、少しの力で食べ物をつまむことができるので、手に力が入らないが、スプーンではなく箸で食事をしたいかたなど、ぜひ使ってみてもらいたい一品です。

日頃、健康に自信のあるというかたも、福祉機器にどんな物があるのか、この機会にちょっと見学してみたいかたがでしょうか。**3日前までに予約をすれば、誰でも見学・体験ができます。**便利なグッズの発見があるだけでなく、健康に対する考えが変わるかもしれません。

最後に、「このような介護をなるべく受けなくていいように、日ごろから運動を心掛けるなど健康管理をすることが家族のためでもあり、自分のためでもあると思います。」と、案内や説明をしてくださった高島さんの言葉を聞き、改めて健康意識を高めたいと思いました。



所在地：弘前市大字大清水1丁目11-1
利用申込・問い合わせ先：☎35-1278
(弘前市健康福祉部福祉政策課)



豆 知 識

そろそろ小学校の運動会シーズン。

校舎の窓に、てるてる坊主の姿を見掛けます。

このてるてる坊主、もともとは中国の伝説に登場する、ほうきを持ち空の雨雲を掃除して晴れ間をもたらす『箒晴娘』という女の子をモデルとした風習で、それが日本文化の中で変化したものだそうです。

私は顔を描いてから軒先などに吊るしていましたが、顔を描かないで、のっぺらぼうの状態です。晴れたら顔を描いて御神酒を供え川に流す地方もあるようです。

また、『幸せの黄色いてるてる坊主』という東日本大震災をきっかけに、復興のシンボルとして被災地を応援する為に作られたものもあり、その売上の一部が復興支援費になるそうです。



編 集 後 記

4月から市民参画センターに配属になりました菊池と申します。

まだ日にちも浅く、緊張の連続の日々ですが、ボランティアスタッフの皆さんやセンターを訪れる方々の気さくで明るく元気な様子に励まされています。

近年、ボランティアの意識が高まり、その重要性も再認識されている中、少しずつではありますが、私も皆さまのお役に立ちたいと頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

菊池佳子



＜製作＞市民ボランティアスタッフ＜製作協力＞弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市市民参画センター内
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822
H P: www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/

※ URL が変更になりました。
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。